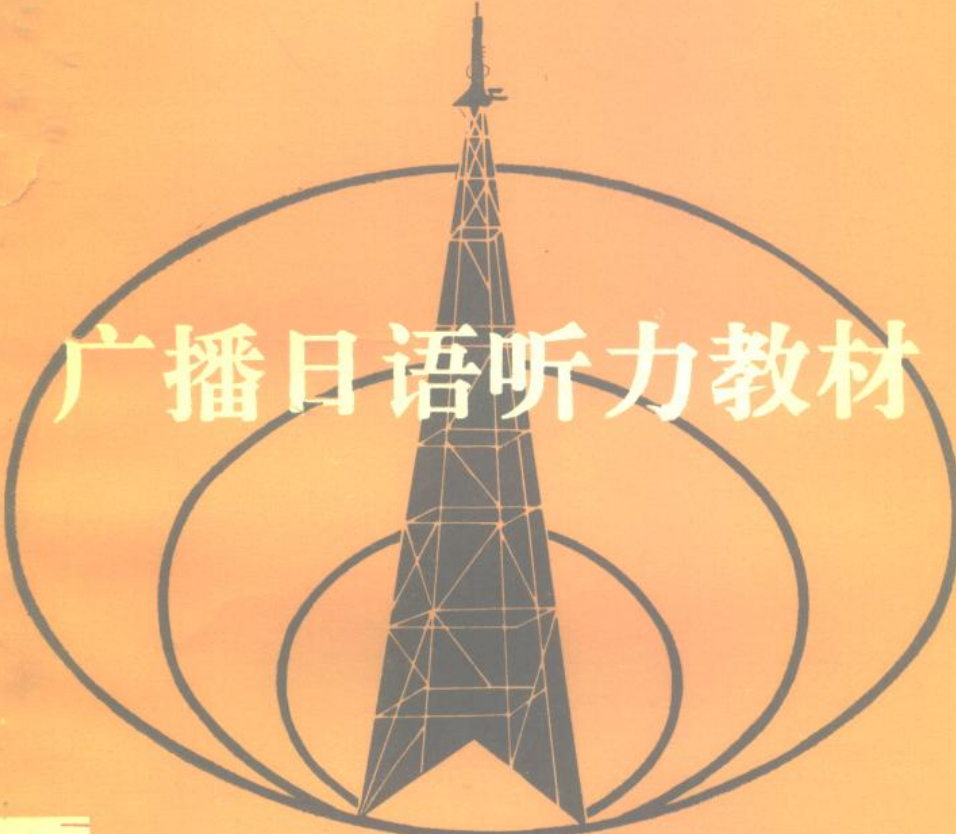


中日友好交流节目

马秀兰 编译

田昌植 校译



广播日语听力教材



日本关西东海电台（日中交流）原版
天津人民广播电台日语广播讲座教材

11369.1
M26

413679

日本关西东海电台 (中
日交流)原版 天津人民
广播电台日语广播讲座教材

广播日语听力教材

——中日友好交流节目

编译 马秀兰 校译 田昌植



中国广播电视出版社

广播日语听力教材
——中日友好交流节目

中国广播电视出版社出版
(广播电影电视部灰楼)
北京北苑印刷厂印刷
新华书店总店北京发行所经销

787×1092 毫米 32 开 8.125印张 170(千)字

1990 年1 月第1 版 1990 年1 月第1 次印刷

印数: 1—30500册 定价: 3.10元

ISBN 7-5043-0273-2/G·91

目 録

第一部分

- 一、四日市交響楽団……………(1)
- 二、日本を訪問する天津青年友好代表团……………(5)
- 三、四日市市の万古焼……………(9)
- 四、日本酒大学を訪問する天津市青年代表团……………(13)
- 五、日本青年旅行の船の天津訪問……………(16)
- 六、四日市市高校サッカーチームの紹介……………(20)
- 七、四日市港と天津新港について……………(26)
- 八、帰国した日本人留学生に聞く……………(31)
- 九、人気女優中野良子……………(37)
- 十、東海ラジオを訪問する天津人民広播電台訪日団(40)
- 十一、“天神号”の来日……………(45)
- 十二、日本の人気歌手……………(52)

第二部分

- 一、上海、神戸、大阪を結ぶ定期航路……………(57)
- 二、ユニバーシアード——神戸大会……………(62)
- 三、神戸市の観光バス……………(66)
- 四、中国民謡歌手の訪日……………(71)
- 五、神戸研究学園都市について……………(74)
- 六、歌手アグネスチャンさんを訪問する……………(78)

七、日本歌手杉良太郎さんを訪問する……………	(81)
八、趙毓民先生日本で執教一年……………	(87)
九、天津を訪問するラジオ関西“中国友好船”……………	(90)
十、神戸華僑児童合唱団が誕生……………	(94)
十一、第十六回世界歌謡祭……………	(97)

第三部分

一、神戸市立青少年科学館……………	(101)
二、上海少年サッカーチームの初訪日……………	(106)
三、オリンピック運動会閉幕……………	(109)
四、日本の「成人の日」……………	(114)
五、無錫で活躍する日中友好の使者……………	(119)
六、趙毓民先生初来日……………	(123)
七、中日芸術家の共同出演……………	(128)
八、神戸市中華同文学校……………	(133)
九、神戸東灘区福池小学校の作文講演会……………	(137)

参 考 译 文

第 一 部 分

- 一、四日市交响乐团…………… (143)
- 二、天津青年友好代表团访问日本…………… (146)
- 三、四日市市的万古烧…………… (149)
- 四、天津市青年代表团访问日本酒大学…………… (153)
- 五、日本青年旅游船访问天津…………… (156)
- 六、四日市市高中足球队简介…………… (159)
- 七、四日市港口与天津新港概况…………… (164)
- 八、访问归国的日本留学生…………… (167)
- 九、日本影星中野良子趣闻…………… (171)
- 十、天津电台访问日本东海电台…………… (174)
- 十一、「天神号」抵达日本…………… (178)
- 十二、日本歌星…………… (182)

第 二 部 分

- 一、中国上海与日本神户、大阪开辟定期航线…………… (185)
- 二、世界大学生运动会——神户大会…………… (189)
- 三、神户市旅游观光车…………… (192)
- 四、中国民歌演唱家在日本…………… (196)
- 五、神户研究学园城的变迁…………… (199)
- 六、访问歌星陈美龄小姐…………… (202)
- 七、访问日本歌手杉良太郎先生…………… (204)
- 八、赵毓民先生在日本任教一年…………… (208)

九、关西电台“中国友好之船”到天津·····	(210)
十、神戸华侨儿童合唱团的诞生·····	(214)
十一、第十六届世界音乐节·····	(216)

第三部分

一、神戸市立青少年科学馆·····	(219)
二、上海少年足球队首次访日·····	(223)
三、奥林匹克运动会闭幕·····	(226)
四、日本「成人节」·····	(230)
五、日中友好使者在无锡·····	(234)
六、赵毓民先生第一次赴日任教·····	(237)
七、中日艺术家同台献艺·····	(241)
八、神戸市中华同文学校·····	(244)
九、神戸东滩区福池小学作文演讲会·····	(247)

第 一 部 分

一、四日市交響楽団

＜音楽＞ 入る。低くなる。

日中交流番組 東海からお元気ですか。

＜音楽＞ 高くなる。 低くなる。

天津人民広播電台の放送をおききの皆様、今日は！私は、東海ラジオ放送のアナウンサー大手通恵です。

天津人民広播電台、そして東海ラジオ放送と、二つの放送局の制作番組の交換が始まってすでに3ヶ月、こうして、二回目の制作テープを皆様にお届けすることになり、大変うれしく思います。

さて、東海ラジオ放送の放送スタジオは、日本のほぼ中央、愛知県の名古屋市にあり、その名古屋市からほど近いところに、天津市とは友好都市の三重県四日市市があります。

そして、私は、現在、その四日市市に住んでいます、

四日市市には日本最大の石油コンビナートがあり、活気あふれる港町として年々発展しつづけています。

この四日市市の過去、現在、未来を歌いこんだすばらしい音楽、“交響詩四日市”がこのほどできあがり、盛大に発表演奏会が行われました。そこで、これから皆様に“交響詩四日市”の作詩者、作曲者のおはなしや、演奏会のもよみをきいていただきたいと思います。“交響詩四日市”は、四日市市の青年実業家たちの組織四日市青年会議所が、創立30年の記念事業として制作しました。そして、四日市市の市民を中心に編成された四日市市交響楽団、そして四日市市第九合唱団、四日市少年少女合唱団によって演奏されることになり、毎日、毎日熱心な練習が重ねられました。

〈録音〉一練習風景一 作詩をしたのは、四日市市の中井正義さんで、四日市市やその周辺の都市の小学校、中学校の校長をつとめられたすぐれた教育者です。中井さんは、こう語っています。

〈録音〉一四日市の過去、現在、そして未来への展望を詩にもりこんだ。自然や風物をゆたかにとりいれて、市民に親しめる作品にしたいと思った。詩の長さを半分にちぢめたのが効果があったと思う。

そして、作曲者は、日本の音楽界でも有名な山本直純さんで、次のように語っています。

〈録音〉一大変味わいの深い詩で、芸術的にも、社会的にも、教育的にもとてもすぐれた詩であり、感動しました。そして、作詩の先生と話しあって五つの楽章にわけ、作曲しました。

交響詩四日市は、全体で五つの楽章にわかれています。

第一楽章では、四日市市の現在、つまり四日市の港、そして石油コンビナートの雄大な風景など、活気あふれる姿がうたわれています。そして第二第三第四楽章では四日市市の過去がうたわれます。毎月四の日、四日、十四日、二十四日に市が開かれたという四日市という名前の由来や、菜の花、桜、梨の花などが美しく咲く村の景色、農業や漁業に従事する人の素朴なくらしがあざやかによみがえってきます。

そして、第五楽章では、四日市市と天津市の友好が高らかにうたわれ、未来へ向って発展しつづける四日市市への市民のほこりが、喜びにあふれたメロディーで、もりあがります。

第一楽章から第五楽章まで、そのすべてをぜひ皆様にきいていただきたいのですが、時間の関係で、できません。そこで第五楽章の詩を全文紹介し、ひきつづいて第五楽章の演奏をきいていただきたいと思います。尚、演奏会は、先日、四日市文化会館で盛大に行われました。

それでは、交響詩四日市第五楽章の朗読につづいて、演奏をおきき下さい。

透明な夜空に、永劫のひかりまたたく。

友好都市天津の歴史と伝統と文物に心を寄せながら、わたしたちは歩く。

老いたる者も、春秋に富む者も、夢と希望を持ち、英知をあつめ、一日一日、新しく豊かな歴史を重ねる。
若者よ、明日を語れ。

天を敬い、人を愛し、風と光と土を愛し。

国際都市四日市の明日を夢みよ。

やがてまた朝日はのぼる。

朝日はのぼる。

はてしなく広い空の下

世紀を超えて進むわたしたちのまち四日市をたたえよ。

四日市の明日をたたえよ

明日をたたえよ。

〈録音〉一交響詩四日市第五楽章の演奏一

〈録音〉一大拍手一

演奏会の日、長い長い拍手がつづきました。

聴衆は、そして四日市交響楽団団長の北川正彦さんは、その喜びをこう語りました。

〈録音〉一聴衆のひとり……もう涙がでるほど感動しました。わが子が合唱隊に参加しているのでなおさら感激しました。この演奏のテープが天津市へ送られるのは、四日市市民として誇りに思う。

石原さん……演奏者も。聴衆もともに感激の演奏会になって、大変うれしい。

〈音楽〉入って、低くなる。

交響詩四日市は、四日市市民に長く愛される音楽として、制作にあたった四日市青年会議所から四日市市に寄贈されました。この曲が、いつの日か、友好都市の天津市で演奏されることを、私達は心から願っています。

アナウンス担当は、東海ラジオ放送、大寺通恵でした。

それでは皆様、お元気で。

二、日本を訪問する天津青年友好代表团

<音楽> (入って低くなる)

日中交流番組 東海からお元気ですか?

<音楽> (高くなって又低くなる)

天津市の皆様、今日は! 私は、東海ラジオ放送のアナウンサー大手通恵 (おおてみちえ) です。始めまして!

このたび、天津市と四日市市の姉妹都市5周年を記念して、天津人民広播電台と東海ラジオ放送がおたがいの制作番組を交換して放送することになり、四日市市に住んでいる私が、番組担当のアナウンサーに選ばれました。何といううれしいことでしょう。この感激の気持ちをいつ迄も忘れないで、天津市の皆様番組をずっとお届けしてゆきたいと思います。

青い空、青い海、活気にあふれる港、そして日本一の石油コンビナートの工場群・・・私の住んでいる四日市市は、すばらしいまちです。

そして、なんとうれしいことに、このほどわがまち四日市の夏をいろどるにぎやかな四日市まつりに、天津市の若者たちが参加してくれたのです。

天津市青年連合会副主席の羅保銘さんを団長とする一

行15名は、天津の民族衣裳を着て、さっそくおまつりパレードに参加しました。

＜音響＞（爆竹の音入って、以下の語りの背景に流れる）

美しくかざられた車の上で、一行はにこやかに手をふりながら、日中友好のあかしの風船を、四日市市の市民たちにくぼりました。そして一行のパレードに花をそえたのは、爆竹の音もにぎやかな横浜華僑青年獅子倶楽部の蛇踊（じゃおどり）でした。

＜音響＞（消える）

団員のひとり、紡績工学院 学生会秘書長の若く美しい女性、趙少華さんは、おまつりパレードに参加した感想をこう話しています。

（趙少華さんのはなし）

＜大手アナウンサー＞ パレードに参加しての感想は？

＜趙＞ 私は、感激でいっぱいです。四日市のおまつりに参加して、四日市市と天津市の友好を深めるのに役立ててうれしいです。

そして、天津からの若いお客様たち15人をむかえた四日市の市長公宣次長の田中昌治さんは、

「今回やってこられた青年たちは、みんな明るく知的で、美男美女ばかりです。これからあと、四日市、京都、奈良などをたのしんでほしいし、日本食もたのしんでほしい。今日はこのあと、天婦羅とひやしそうめんを食べていただきます。」

こうして、にぎやかなおまつりに参加した天津市青年友好代表団は、それから1週間、いろいろな場所を精力的に

見学しました。

日本酒の製造工場や石油化学工場などの工場見学は勿論のこと、伊勢志摩スカイラインの美しい風景を楽しむドライブなど、楽しい旅がつづきました。

そして、一週間たったあと、私は再び天津の若者たちとであい、色々とおはなしをうかがいました。私の興味は、まず日本の食べ物についての彼らの感想でした。

(団員たちののはなし)

「日本の食べ物はやわらかくて新鮮でした。刺身はちょっと食べにくかったんですが・・・日本の調味料ではじめて体験したのは焼肉のたれで、まちがってそのたれを飲んでしまいました。」

“郷に入りては、郷に従え”つまりその国の習慣になれなさいということわざがありますが、羅保銘さんはみごとに日本の食べ物になじんでいったようです。羅保銘さんはふるさとの天津市へ帰ったら、奥さんに鯉を刺身にして料理してくれるように頼みたいとおっしゃってました。

こうした、日本の食生活になれることのほかに、天津市の若者たちは、日本のはたらく人達の労働条件について強い関心を持ち、工場見学のと き、色々質問をかさねたようです。

(団員のはなし)

「日本の青年労働者のはたらきぶりをみせていただきましたが、単純作業が多く、長くやるとつまらなく

なるのではないかと気になりました。この点が、わたしたち中国の青年労働者とちがうと感じました。」

このように、天津の若者たちの、ありのままにものを見つめる眼と率直な感想から、日本人たちも多くのものを学ぶことができると思います。そして、そのことが、天津市の市民と四日市の市民がより深くおたがいのことを知り、友好を深めることに何よりも役立つことでしょう。

そこで、天津市青年友好訪問団の秘書長、劉長喜さんに、もし、四日市の市民が天津市を訪れるとしたなら、どんなところで楽しくすごしてほしいかとうかがってみました。

〈劉長喜さんのほなし〉

「日本側の協力によってつくられた青少年活動センターで中国青年が楽しくすごしているのをみてほしい。そして天津市郊外の古い万里の長城をみてほしい。」

長い歴史と、そして新しい発展と・・・二つのものがみごとに調和している天津市を、いつの日かたくさんの四日市市民が訪れることを、私達は心から期待しています。

天津市青年友好代表団が、このたびの四日市の訪問で、天津からもってきたおみやげの一つは、夜よくねむれるようにつくられた漢方薬のはいったまくらでした。

大変に心のこもったおくりものだと思いますが、天津からやってきた若者たちは、10日間の四日市での滞在期間

中、四日市市民とのふれあいで、もっと心あたたまる友情というおくりものを残していつてくれたのです。

＜音楽＞（はいつて低くなる）

日中交流番組 東海からお元気ですか？

アナウンス担当は、東海ラジオ放送の大手通恵でした。

それでは天津市の皆様 お元気で！

＜音楽＞（高くなってきえる）

三、四日市市の万古焼

＜飛行機音～音楽一入って低くなる一＞

日中交流番組 東海からお元気ですか！

＜音楽一高くなって低くなる一＞

天津人民広播電台の放送をおききの皆様 今日は！私は東海ラジオ放送のアナウンサー大手通恵です。天津市の友好都市である三重県四日市市のことをもっともっと皆様に知っていただこうと、今月も楽しいレポートをおとどけしたいと思います。さて今回は、万古焼という四日市の陶器産業ではたらく若者たちが、仕事のあいまに太鼓演奏で大活躍している様子をお伝えいたしましょう。

四日市市の万古焼は 250 年の歴史をもち、特に急須、土鍋、花器つまりお花を生けるうつわの生産では全国的に有名で、今では年間総生産額はおよそ230億円にものぼり、その 55 %が輸出されています。そして万古焼の生産会社の 197 社、販売会社の 104 社が手を結んで万古振興会を結

成し、その中の 20 代、30 代の若手が中心になって 7 年前万古太鼓振興会をつくり、今では 15 人のメンバーが、白と黒のそろいのはっぴ姿で軽快な演奏を披露しています。日本の伝統的な太鼓はやや重々しいひびきなんです。彼らの万古太鼓はうって変わってモダンでスマートでジャズやロックのフィーリングにあふれています。それも万古焼の陶器をうまく利用して楽器にしまい太鼓と合奏するという実に独創的な演奏です。まあちょっとこれをおきき下さい。

〈録音〉 一大手：ここで音をだしていただけますでしょうか。

(音) 男：こういう音です。これは植木鉢です。大手：植木鉢でこういう音がでしまうという。これ大きさによっても音が変わりますか？ 男：ええ、こっちをきいて下さい。

(音) 大手：楽器としては何にみたてているんですか？ 男：チャンチキなんかの鐘なんかにみたてています。大手：じゃあ、こちらの方の音をだしていただけますでしょうか。(音) 大手：これは何なのですか？ 男：これは急須の中に小石をいれた、マラカスみたいなものです。大手：今小さな急須を 4 つもってふられましたねえー。それからちょっと音だしてみして下さい。(音) 大手：これは？ 男：これはひょうたんです。これもさっきの急須と同じようにマラカスのようにしてふるわけなんです。大手：もう一つありますね。

これは？ (音) 大手：ほら貝のような音ですね。男：あの、どびんなんです。四日市が一番多くどびんをつくりますから。大手：ああ、そうですか。(笑い)

どうですか？ 楽しいでしょう。四日市駅から車で 5 分ぐ